

【 第7回 男子ユースアジア選手権 】

2016年8月27日～9月5日 バーレーン・マナーマ

試合結果報告 9月3日 (土)

J P N	VS	K O R(韓国)
17	前半	14
13	後半	15
0	第1延長	0
0	第2延長	0
30	合計	29

個人得点

名前	前半	後半	第1延長	第2延長	合計
高光 凌	0	0			0
高野 颯太	1	1			2
浅川 律樹	0	0			0
阿部 奎太	4	1			5
部井久 アダム勇樹	0	1			1
服部 将成	0	0			0
徳田 廉之助	4	5			9
藤川 翔大	0	0			0
村木 幸輝	3	1			4
藤田 龍雅	1	1			2
堀田 陽大	0	0			0
矢野 世人	4	2			6
助安 大成	0	1			1
若狭 圭悟	0	0			0
狩野 優太	0	0			0
					0
					0
					0
合計	17	13	0	0	30

戦評

男子ユースアジア選手権の準決勝は宿敵韓国と対戦。この試合に勝てば世界ユース出場が決まる重要な試合。この日も現地在住日本人大応援団の後押しを受け、日本ユース代表チームは世紀の一戦に臨んだ。立ち上がり、日本はLB阿部のロングシュートなどで先行し、開始3分で3-1とリードする。その後、韓国もポストプレーヤーにボールを集め反撃し、前半6分日本は4-5と逆転を許す。そこから日本は韓国の高いDFに対し果敢に突破を試み、ポストシュート・カットインで加点。韓国は77の切れ味鋭いフェイントを軸に攻撃を展開しノーマークを作るものの、GK堀田が韓国のシュートをことごとく阻止。その間にRW藤田・LB阿部・RB徳田で3連取し、前半15分13-9と日本がリードする。その後、一進一退の攻防が続き17-14の3点リードで前半終了。後半も互角の展開で始まったが、後半9分韓国が数的不利な状況からフィールドプレーヤー6人で攻撃を仕掛けてきたところ、マイボールにした日本はPV助安が無人のゴールへ投げ込み21-17とし、この日最大となる4点リードを奪う。そこから自力のある韓国も77を中心に猛攻を仕掛け、2度にわたる4連取などで後半26分25-26と、ついに逆転を許す。それでも日本は慌てずRB徳田・LW矢野と加点し食らいつく。後半28分韓国77のカットインが決まり27-28と再度韓国リードとなるが、ここからキャプテン村木の気迫のロングシュート、RB徳田の切れ味鋭いロングシュートで後半29分29-28と再び日本が逆転。その後、韓国14のシュートで再び同点となったところで日本がタイムアウト。OFの確認をし、選手は歴史を変えるぞと叫び、固い決意をもって最後のOFに臨んだ。そして後半29分56秒、LB阿部が試合を決めるカットインシュートを豪快に叩き込み30-29で日本が勝利した。会場の大声援、選手の闘志あふれるプレーがひとつとなって得た勝利であった。決勝の相手は地元バーレーン。アジアチャンピオンの座をかけて、再び歴史を変える一戦に臨む。

報告記入者 :

古家 雅之